

### Ⅲ 学校教育目標

#### 1 学校教育目標

## 夢と愛をもち 未来にはばたく子ども ～ やさしく かしこく たくましく ～

学校教育目標「夢と愛をもち 未来にはばたく子ども」は、子どもの知・徳・体の成長とその可能性の実現を目指す目標であり、当麻小学校のすべての教育活動が目指すものである。合い言葉「やさしく かしこく たくましく」は、児童・教職員・保護者がねらいを共有し、日常的に意識するためのシンプルかつコアな部分である。まず「やさしく」があり、最後に未来へ向かう力を意味する「たくましく」がある。

当麻小学校はこれまでも教育目標の実現を目指す取組を進めてきた。その実践が保護者や地域そして行政からの信頼へとつながっていく。これまでの当麻小学校の教育を継続・発展し、当麻の未来を支える子どもを育てることが、当麻小学校の一番の宝であり、誇りである。

子どもが生きる「未来」は様々な困難が予想される。その中で自分なりの夢を抱き、周りの人と愛を育みながら、困難を乗り越え未来にはばたく力を養い、当麻小学校の子どもに輝ける未来を提供したい。

#### 2 本校の目指す姿

学校の教育活動は、学校教育目標の実現のためにある。学校教育目標「夢と愛をもち、未来にはばたく子ども」をより具体化した「めざす子どもの姿」、それを育む「目指す学校像」、そして、この学校で働く「目指す教師像」を以下のように考える。

##### (1) 目指す子ども像

学校教育目標をより具現化し、学校・保護者・地域で共有したり、教育活動のねらいや子どもの育ちを客観的にとらえるために、以下のような子どもの姿を目指している。

#### 愛を育むやさしい子ども

思いやりや感動の心をもち、人や物を大切にする  
生命の尊さを感じ取り、自然や動植物、命あるものを大切にする  
仲よく励まし合い、協力し合う

#### 夢を抱くかしこい子ども

夢を広げ、学ぶ楽しさを実感し、進んで学習する  
課題に向けて、自分の考えをもち学習に取り組む  
人との関わりを大切にし、正しく判断し行動する

#### 翔く力を培うたくましい子ども

目標の達成に向け、粘り強くやり遂げる  
運動に親しみ、強い体に鍛える  
望ましい生活習慣を身に付け、健康・安全に気を付ける

## (2) 目指す学校像

学校教育目標の実現のため、以下のような学校を目指していく。

子どもにとって、楽しく潤いのある学校  
保護者にとって、信頼のある学校  
教師にとって、感動のある学校  
地域にとって、ともに歩める学校

## (3) めざす教師像

教職員が一丸となり教育活動を進めていくにあたり、以下のような教師を目指していく。

教職員が一丸となり、子どもと共に笑顔で活動する学校に  
子どものよい話題であふれる職員室に  
子どもの未来を考え、子どものために動き出す教師に  
やる時はやる、楽しむ時は楽しむ仲間に

当麻小の教職員は、保護者・地域の信頼に応えていける教職員であり続けたい。

## 3 学校経営の基本方針

学校経営の基本に子どもを据え、常に子どもの側に立ち、子どものために教職員一人一人が個性と力を発揮する学校経営を目指す。

- ①学校経営の基本に「子ども」を据え、常に子どもの側に立って教育活動の立案・実践・改善にあたる。
- ②学校教育目標の実現を目指して、学年・分掌の組織的な取組と本校の特色を活かした教育活動を、長期的な展望をもちながら全教職員で推進していく。
- ③「やさしく」「かしこく」「たくましく」の調和の取れた子どもの育成を目指し、課題を明確にして具体的な対策を推進する取組を進める。
- ④学校・家庭・地域がそれぞれの役割を明確にし、相互に連携・協力しながら、お互いの教育機能を十分に発揮して子どもの育成を図っていく「地域の学校づくり」を目指す。
- ⑤学校は公教育の場であり、常に教育公務員としての使命感をもって職務にあたる。
- ⑥今日的な課題に向けての対応や緊急の課題解決に向けて、教職員が一丸となって意欲的に取り組む気鋭に満ちた学校をつくる。

## 4 年度の重点目標

### やる気！根気！ ～何にでも挑戦，そして最後まで～

昨年度は，平成30年度の成果と反省を受け，の重点目標を「かがやく 笑顔 ～一人一人に力をつける～」と設定し取り組んできた。また，学校教育目標「愛と夢をもち，未来にはばたく子ども」や「めざす子ども像」を，子ども・保護者・地域と共有し，教育活動のねらいの明確化を目指してきた。学校評価等では「教師の指導の有効性」「学力や学習状況の向上」「学年や分掌の教職員チームとしての一体感のある実践」「研修や実践の充実」「教育課程作成とそれに向けた子どもの姿の共通理解の深化」等を成果として考えている。反面，学校教育目標に照らし合わせた時の課題として「相手のことを考えた言葉かけ（やさしく）」「学びに向かう意欲や学び方（かしこく）」「困難を乗り越えようとする心（たくましく）」等があげられている。

そこで，本年度の重点を「やる気！根気！ ～何にでも挑戦，そして最後まで～」と設定し，教育活動の充実を進めることとした。この「やる気」「根気」は活動プロセスの中の場面と考え，以下のようなサイクルを大切に，様々な場面で大切にしていきたい。

#### <基本的な活動のサイクル>

- ①子どもがなりたい姿を明確にする
- ↓
- ②実践の場を明確にし，適切な支援を行う
- ↓
- ③子どもの育ちを肯定的に他者評価し，自信や意欲につながる自己評価を行う。
- ↓
- ④新たな意欲や課題意識をもつ。

①のなりたい姿の明確化がまず「やる気」へとつながる。そのための教師の働きかけがポイントとなる。次に②適切な難易度やモデルの提示等を工夫したい。次に実践の場の設定と，教師や同級生や家庭・地域の支援が大切である。ここが「根気」へとつながる。さらに③の肯定的他者評価が「根気」の向上と次への「やる気」を高める大きなポイントとなる。それを自己評価等を通して確かなものにしていくサイクルが大切である。

また，目指す具体的な姿を学校目標との関係でとらえると以下のようなになる。

**やさしく 挨拶ができ，誰とでも仲よく，自分も相手も大切にできる子**  
**かしこく 基礎基本を確実に身につけ，生き生きと学ぶ子**  
**たくましく 健康・安全に気をつけて，困難も乗り越えられる子**

これらの姿は，各分掌の目標に反映されるとともに，教育活動全般での重点や精選の規準となってくる。また，学校評価の基準ともなる。

本年度の重点目標を，子どもにもわかりやすく示すとともに，保護者・地域そして学校運営協議会と共有し，ねらいが明確で成果の見える教育活動を展開していく。そして何より，学校の教育活動が学校教育目標の実現を目指していること，本年度の教育活動において絶えず意識すべきことが，年度の重点目標であることを全教職員で確認し，実践を進めたい。それがそれぞれの活動の効果を高めるとともに，活動の精選を進め，教育活動の充実を進めることとなる。

## 5 学校経営の重点

本年度の学校経営の重点を以下の4点とおさえ、学校運営にあたる。

### (1) ねらいの明確化と組織的対応

- 学校教育目標や学校評価、分掌や学年での話し合いを通して、ねらいを明確にする。
- ねらいを達成するための活動や組織を工夫し、共通理解のもと、活動を進めていく。
- 学校評価を工夫し、教育活動の明確化と改善のサイクルを確立していく。ねらいを明確にし、子どもや保護者・地域の理解を深めながら、活動の改善を進めていく。

### (2) 教育課程の改善と充実

- 令和2年度の教育活動を通して、地域素材や体験的な活動の精選と充実を進める。
- 総合的な学習の時間のねらいを明確にし、当麻小ならではの教育活動を立案していく。
- 生活科（幼保との連携）社会科（各種大会等）で培った単元構想や活動を日常実践へと進化させていく。

### (3) 家庭や地域等との連携

- 学校運営協議会の活動を通して、当麻小学校の教育活動と今後の方向性や課題の周知と理解を図る。
- 家庭の教育力の向上や不登校への対応として、保護者と関係機関との仲立ちを務め、連携した取り組みを推進していく。
- PTA活動や社会教育との連続性を意識し、学校教育活動のスリム化を試行していく。

### (4) 長期的展望に立つ計画の作成と推進

- ICTを活用した学習活動のあり方を明確にし、機器等の整備を計画的に進めていく。
- 学級減と学級児童数増に対応した校舎や設備の改善や校務組織の見直しを進めていく。
- 当麻小の支援教育のあり方を大きな視点から検討し、通常学級における支援の充実も進めていく。

上記の4点を受けて、各分野で以下のことに取り組む。

#### (1) 教育課程

学習指導要領に対応し作成した教育課程の検証改善を進めるとともに、教育実践を通してより具体的なものへと高めていく。

- ◎子どもの意欲と根気を大切にしたい取り組みを心がけ、分掌や担任レベルでの計画的な活動を工夫する。
- 各担任は実践を通して配慮事項等が教育目標等の本校のねらいに適しているか、地域教材の位置づけは適切か、教科間での重なりはないかを検証し、必要に応じて改善を進めていく。
- ◎学校評価を通して、子どもの育ちや本年度の取り組みの成果をしっかりと評価し、改善へ活かしていく。
- 各種研究会（生活科・社会科）や校内研修（国語科）で培った単元構成や活動をしっかり教育課程に位置づけて、取り組みの成果の日常化を図る。
- ◎総合的な学習の時間のねらいや活動内容を精査し、「心育」のより一層の具体化を図るとともに、本校でのねらいや教科との関連を明確にした教育課程作成を進めていく。
- ICTを活用した当麻小の学習の姿を検討実践を進めていく。

## (2) 校務分掌

ねらいを共有し、担当者が個性を活かしやすい組織と日常的な連携を通して、機能的な校務推進を図る。

- ねらいを明確にし、それにそった活動を重視し、業務の精選・充実・改善を図る。
- ◎1年間の活動を通して、今後の学校規模縮小や家庭・地域との連携強化等に対応した組織改革をすすめていく。
- 報連相の徹底と課題の共有化を進めるとともに、成果についての報告も大切にし教育活動の進捗を確かなものとする。
- 各分掌と特別委員会の関係を明確にし、組織のスリム化と機能化、効率化を図る。
- 各校務分掌を推進する中で、その分野の専門性を養ったり、他への転用を図る。

## (3) 学級・学年経営

互いを尊重する気持ちを育てる場所、子どもが挑戦する場所、頑張りぬき認められる場所となる学級・学年経営の充実を図る。

- 大きな視野から一人一人が認められる場を設定し、子どもの自信と意欲を高める。
- ◎学年としての情報やねらいの共有を図り、教師間のチーム体制を明確にし、全ての子を全ての教師でという意識で取り組む。
- 「そろえる指導」や当麻小の学び方等を意識した実践を進め、6年を通して子どもを育てていく意識で取り組む。
- ◎子ども一人一人のニーズをまず把握し、通常学級における支援が必要な児童の育成を進める手立ての充実を図る。

## (4) 家庭・地域との連携

長期的視点に立った学校のあり方を家庭・地域と共有し、子どもの未来をつくるために、学校運営協議会の活動推進や幼小中の連携、PTAとの相互連携を深めていく。

- ◎課題解決に向けた取り組みを他校と共有し、学校運営協議会組織を活用したり、保護者の理解をえたりしながら、当麻小の教育活動を推進していく。
- ◎地域教材を活用した取り組みの実践を通して、活動の精選・充実・改善を図る。
- 幼小の連携の具体化、小中の連携の充実、宇小との連携の継続等を進めていく。

## (5) 教育環境

長期的視野をもって教育活動の効果を高めるとともに、安全でゆとりと潤いのある教育環境の整備と充実を図る。

- ◎学級減・学級人数増に対応した校舎、GIGAスクールへの対応等を進めていく。
- 安全計画や危機管理マニュアルを整理し、より使いやすいものへと改善していく。
- 学び舎にふさわしい校舎内外の環境整備と充実を進める。

## 6 各分野での指導について

### (1) 教科指導

学習の基礎となる学習環境や学び方の定着を一層進めていくと同時に、子どもの学習への意欲を高めるための工夫改善を進めていく。

- ◎子どもの学びへの意欲を重視し、子どもの主体的な学習を支える指導に取り組む。
- ◎日常実践と研修や研究授業等との一体化を進め、学び方の育成や教材開発の成果を十分に生かした指導を進める。
- T T指導や少人数指導、専科制や担任同士の授業交換等、学年が旧の実態に応じた効果的な指導法の工夫に努める。
- 「そろえる指導」「当小スタイル」の徹底を継続する。

### (2) 道徳指導

自他の尊重や根気等今年度の重点を意識した道徳教育を推進する。

- ◎本年度の重点目標を意識した道徳教育の実践に務める。
- 児童の発達段階や興味関心等に応じた導入を工夫し、自ら考え論議する道徳の実践を進める。
- 評価と関連付けた日常実践を進める。

### (3) 特別活動

各種体験活動や各教科との関連の充実を図り、人間関係力を培い社会性を育む活動の充実を進めるとともに、めあて意識をしっかりと持ち最後まで取り組む意識を育てていく。

- 自己評価を工夫し、めあて意識や達成感を感じられる活動を工夫する。
- 教師の適切な指導の下、自発的・自治的な児童会活動の促進に努める。
- ◎相手や集団を意識した話し合い活動の充実を図る。

### (4) 総合的な学習の時間

地域教材の活用を図り、体験的な活動を通しての問題解決力の育成を図れる総合的な学習の時間の充実を進めていく。

- 体験的な活動を取り入れ、探究しながら学び方や考え方を身につけることのできる指導の工夫に努める。
- ◎実践を通しながら、ねらいと活動の整合性や重なり等を検討し、よりよい当麻小なりの総合的な学習の時間の改善を進めていく。
- 「心育」の実現に向けた教育活動の工夫を図る。

### (5) 体育教育（令和2年度 新設事項）

体力向上の意識向上と日常的な運動継続、そしてその中核となる体育の時間の充実を進めていく。

- ◎体育の時間を体育教育の要と考え、意識の向上や学び方の向上を図る。
- 休み時間等を活用した運動等の取組を継続していく。
- より広い視野から体育をとらえ、他教科等の関連を意識した取組を進めていく。

## (6) 生徒指導

受容的・共感的な児童理解に務め指導に当たるとともに、関連機関との連携を進めていく。

- 共感的な人間関係を築き、児童のよさを活かす積極的な生徒指導の充実に努める。
- 生徒指導上の課題の解決に向け、全教職員の共通理解と役割の明確化を図り、チームとして対応する。
- 問題行動等の発生については、保護者等との連携を密にし、大きな視野からの指導に努める。
- 必要に応じて児童相談所等外部機関との連携を図り、学校だけでなく地域の力も活用した解決を図る。
- ◎「いじめ」については絶対に許さないという意識を育てるとともに、未然防止の視点で指導に当たる。

## (7) 支援教育（令和2年度 重点事項）

一人一人のニーズに応じたきめ細かな指導と、保護者や関連機関と一体となった取り組みの充実に努める。

- 特別支援学級在籍児童や通常学級に在籍しながらも特別な支援を必要とする子どもへの支援の充実に努める。そのため、情報の共有や定期的な子ども理解委員会の開催、チームとしての指導体制等を工夫する。
- ◎今後の当麻小の支援教育のあり方（教師の支援体制、子どもへの支援のあり方）を検討し、保護者の理解を求めながら、長期的展望に基づく変更を進めていく。
- ◎スクールカウンセラーや各種関連機関との連携を進め、学校だけではなくより大きなチームで分担をしながら進めていく体制を確かなものにする。
- 不登校の対応を学校として組織的に取り組んでいく。

## (8) キャリア教育（令和2年度 重点事項）

よりよい生き方、困難を乗り越える生き方を目指す指導の充実に努めるとともに、本年度の重点となる取組として、特別担当を置き充実に努める。

- ◎本年度の重点となる「乗り越える」取組の具体として、また子どもにそれを実感させる手立ての一つとして取組を進めていく。
- めあてをもつところから自己評価までの一連の活動の繰り返しを通して、自己理解や将来の生き方に目を向けさせていく
- ◎「マイパスポート」等の活用を図り、次年度以降重点からはずしたとしても、その活動が継続できる体制や指導方法を学校のものとする。

## (9) 健康教育

自ら健康な生活を営む資質能力を育てる健康教育の充実に努める。

- 保健の学習や学活等での学習、集会や委員会活動等を通して、健康な生活への意識を高める。
- 子どもに日常から手洗いの大切さ等の健康管理の大切さを伝えるとともに、デマや風評・差別等の意識を持たない指導にも配慮する。
- ◎感染症等への対策を学校としてしっかりと取り組むとともに、様々な事態へ対応できるマニュアルの整備を進めていく。

## (10) 安全教育

自他の命の大切さを理解し、日常生活の中での安全意識を高める。

- 登下校時の交通安全や校内での不審者対策を始め、校内外での安全や日常生活での安全に対する意識を高める。
- 自転車乗車時のヘルメット等時代に応じた安全対策を、保護者や関係機関と連携しながら進めていく。

## (11) 情報教育等（含むICT機器活用）（令和2年度 重点事項）

各教科等の具体的・体験的な活動の中で「情報活用」の技能やマナーを身に付けるとともに、自らICT機器を活用した学習活動を進める力を養っていく。

- ネットを活用する際のモラルやマナーの指導、情報を適切に判断し活用する力の向上を図る
- ◎子どもが日常的にタブレット等をつかいこなす当麻小なりの授業の姿を検討し、全教職員で試行していく。
- ◎GIGAスクール等の取組に対応し、必要な環境を含め、長期的展望に立った活用の推進を図る。
- 情報活用力や判断力等必要とされる力を育成する指導の充実を図る。

## (12) 人権教育

自他を敬い、生命を尊重する心情を養う

- 教科等の学習の中で、自他を尊重し思いやりの心をもって接する態度を養う。
- ◎多様性を認め、差別や偏見等が起きないように指導に努める。
- 権利と義務、自由と責任についての認識を深めさせ、公共心をもち自立した個人を育てる。

## (13) 食育

たくましく生きるためのよりよい心身をつくる食育指導の充実を図る。

- 食事の重要性や栄養等、心身の成長や健康の保持・衛生についての指導を図る。
- ◎栄養教諭による学級訪問等を通して、望ましい食習慣の指導の充実を図る。
- 食事の基本マナーを日常的に全校でそろえて指導に取り組む。

## (14) 国際理解教育

自国や諸外国の生活・文化・自然等の異文化に主体的に関わることのできる能力を養う。

- 外国語や外国語活動の学習を通して諸外国の文化に触れる活動に取り組む。
- 諸外国と自国の違いを理解し、世界の多様性を理解する。
- ◎世界の中での、これからの生き方や自分にできる事について考える。

## (15) 環境教育

生き物を育てたり、自然環境に触れる活動を通して、身近な環境への関心を高め、よりよい環境の創造に主体的に働きかける態度を養う。

- 教科等の学習や体験的活動を通して、環境問題等への意識を高めていく。
- 各教科等の教育活動全体を通して、問題意識の醸成と身近な実践の推進を進めていく。

#### (16) ボランティア教育

ボランティア活動の意義の理解を深める。

- 児童会活動等を通じたボランティアの実践を継続していく。
- ◎登校時等大勢のボランティアの方のお世話になっていることを意識させ、ボランティア活動への感謝と自ら取組意識を育てる。

#### (17) 防災教育（本年度 「防災学校」実施）

水害風雪害等から身を守るスキルの育成と、不測の事態に対応できる判断力の育成を図る。

- 集団下校等を通して、災害から安全に身を守るスキルの育成を図る。
- 各教科等の学習を通し、災害について学び、自ら考える判断しようとする意識を高める。